
外国人留学生選抜（前期）（後期）

芸術

デッサン

[出題方針]

本選抜では、アドミッション・ポリシーに掲げる教育理念の実現に資する人材を選抜するため、実技試験において、美術・デザイン領域の学修に必要とされる基礎的描写能力、対象への観察態度、ならびに造形的思考の適性を総合的に評価します。受験生が対象事象に対し真摯かつ倫理的に向き合い、その把握・認識の過程を自らの判断に基づき構成および表現へと展開し得る資質を重視します。また、課題に対して自立的に取り組み、課題発見および問題解決に至る思考の柔軟性と修得意欲を確認することを目的とします。

以上の観点に基づき、実技試験では、基礎的素養とともに、本学部における教育課程を主体的かつ継続的に履修し得る適性を有する者かを判定します。

併せて、本学部が求める、社会・自然・人間に対する誠実な姿勢、協調性および円滑なコミュニケーション能力を備えているかを確認し、将来にわたり専門領域の進展に寄与し得る創造的態度を持つ受験生を選抜します。

[高校の学習で大切にしたいこと]

1. 観察する力を育てること

手の形や動き、影の落ち方など、身近な対象でもよく見て理解する習慣をつけましょう。観察を丁寧に行うことで、鉛筆デッサンの正確さだけでなく、表現の幅も広がります。授業や日常生活の中でも、「**どうしてこう見えるのか**」を考えることが力になります。

2. 試行錯誤する姿勢を大切にすること

手のポーズを変えて描くことや、画面のレイアウトを考えることは、何度も工夫して取り組むことが重要です。失敗を恐れず、描きながら改善点を見つける経験が、表現力や創造力を育てます。課題を自分なりに解釈し、工夫して挑戦する姿勢を大切にしてください。

3. 集中力と時間の使い方を意識すること

120分という限られた時間の中で描き上げるには、集中力を保ち、段取りよく作業を進める力が必要です。学校の課題や制作活動の中でも、時間配分を意識し、計画的に取り組む習慣を身につけることが大学での学びにつながります。

【2025年度 出題内容・出題形式・合計得点・試験時間】

出題内容	出題形式	合計得点	試験時間
前期：「与えられた解答用紙に、自分の手を2回ポーズを変え、レイアウトに留意しながら鉛筆デッサンをしなさい。」	デッサン	各日程 100点	各日程 120分
後期：「与えられた解答用紙に、自分の手を2つ、レイアウトに留意しながら鉛筆デッサンをしなさい。」			

【出題の意図】

前期：「与えられた解答用紙に、自分の手を2回ポーズを変え、レイアウトに留意しながら鉛筆デッサンをしなさい。」

1. 評価したい力

本課題では、対象を丁寧に観察し、その形態や質感を正確に描写する基礎的描写力を評価します。また、手のポーズを変えて描く過程において、観察情報を整理し、画面として成立させる構成力や、主体的に表現方法を判断する思考力を重視します。加えて、アドミッション・ポリシーに掲げる「課題発見・問題解決能力」や「自ら学ぶ意欲」を踏まえ、柔軟な表現姿勢と探究心を持って取り組む資質を確認いたします。

2. 問題のねらい

本課題は、対象を複数の視点から観察し、それを画面上に論理的かつ調和的に構成できるかを確認することをねらいとしております。手の形態理解や陰影表現など、美術の基礎技能を活用する力を測るとともに、限られたスペースに複数のポーズを配置する際の構成判断力も評価いたします。さらに、外国人受験生にとっては、観察や表現における普遍的理解力と柔軟性を確認する意図も含まれます。

3. 大学の学びとの関連

本課題で求められる描写力・構成力・観察力は、大学における美術・デザイン学修の基礎となる能力です。対象を正確に把握し、それを自らの判断で表現に転換する力は、今後の専門的な制作・研究・デザイン活動に不可欠です。さらに、複数の視点から物事を捉え、主体的に問題解決しながら表現を構築する姿勢が、大学での創造的学修を支える根幹的素養として備わっているかを確認することを目的としています。

後期：「与えられた解答用紙に、自分の手を2つ、レイアウトに留意しながら鉛筆デッサンをしなさい。」

1. 評価したい力

本課題では、対象である手の形態や質感を正確に観察し描写する基礎的描写力を評価します。また、2つの手をどのように配置し画面としてまとめるかという構成力や、観察情報を整理して表現へ反映させる思考力も重視します。加えて、アドミSSION・ポリシーに掲げる「課題発見・問題解決能力」や「学ぶ意欲」に照らし、自ら工夫して表現に挑戦する主体性を確認します。

2. 問題のねらい

本課題は、対象を複数描写する際の形態理解と構成力を測ることを目的としています。手の大きさや角度、陰影の変化を観察し、画面内でバランスよく配置する能力を確認することで、基礎技能の応用力や論理的思考力を評価します。さらに、与えられた制約の中でどのように表現上の工夫を行うかという柔軟性も重要な観点となります。

3. 大学の学びとの関連

複数の対象を観察し、構成・表現に反映させる力は、大学での美術・デザイン学修の基礎となります。本課題を通じて、観察力・描写力・構成力を総合的に確認することで、大学での創作・研究・デザイン活動に必要な基盤的能力を測定します。また、課題に主体的に取り組む姿勢が、専門領域における創造的学修を支える根幹的素養として備わっているかを確認します。